

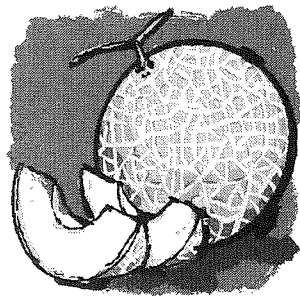
A君は小学校からの帰り道にタンポポが生えているのを見つけ、母親にあげようと摘んで帰りました。帰宅後、ジュースの空き缶に水を入れてタンポポを挿しておき、帰宅した母に渡すと、とても喜んでくれました。夕食時には食卓に綺麗な水差しに活けられたタンポポが飾られており、文字通り会話に花が咲いたのです。翌日は、日当たりのよい窓辺にそつと置きました。

このA君の体験は器の重要性を教えてください。空き缶に挿されていた時よりも、水差しに活けた時の方が本来の美しさを輝かせます。物は相応しい器が与えられることによって調和し、そこで初めてタンポポはタンポポの、器である水差しもまた水差しの良さが引き出されるのです。

こうした調和は日常にも見られます。料理も皿によって味はますます引き立ちます。純米酒も紙コップで飲むより、職人が手間暇かけて焼き上げたお猪口で飲むことにより、さらに美味しく感じられるでしょう。

これは物に限ったことでなく、人にも当てはまります。例えば、A社は社員同士の挨拶も満足になされず、朝礼も実施せず各々で業務が始まり、物も乱雑に置かれた環境です。B社は、朝から挨拶の声が響き渡り、きちんと朝礼を行なった後に仕事が始まり、清掃もいさわたった環境です。

さて、就職先の選択肢として、自分の子供がこの二社で迷っているとしたら、親としてどちらを勧めるでしょうか。また、どちらが子供の成長につながるでしょうか。



良い器から 調和が生じる

この「器」に重きを置いた視点で、現在の職場や家庭を見渡してみたいかがでしょう。更なる成長につながるヒントが見えてくるかもしれません。

毎週開催されるモーニングセミナー（以下MS）に目を向けると、各会の役職者は、近隣の人々がまだ寝静まっている時間から床を出てMS会場に集まっています。会場がホテル以外の会は、水糸を張って机を整然と並べたり、雪国であれば駐車場の雪かきから始めたりする地域もあります。

本番のリハーサルを定刻の四十分以上前から始め、三十分前にはMS朝礼を通じて、役職者は参加者を笑顔でお迎えする空気を醸成していきます。こうした役職者らが自己の都合を後回しにして、利他の精神で作りに上げたMS会場だからこそ、出席者らに感動が生まれ、会場を後にしてからの実践につながっていくのでしょうか。

この会場という器に身を置くことで苦難の中でも心の切り替えにつながった人もいます。一例として次のような感想があります。

「本当に苦しいことに直面して、心前に向けようと独りで努めてみても、なかなかできなかつた。しかし、MSという明るい場に足を運び、明るい人たちに触れることで、自分の心も明るく前向きに変わり、苦難を乗り越えることができた」

思わぬ状況に直面した時のみならず、通常時でも周囲に支えられることが多々あります。今週もMSの会場（器）に足を運び、学びを深めてみませんか。